

HOPE Bourgogne

ブルゴーニュ小史(4)

文芸評論家
饗庭 孝男

あえば・たかお

1930年、滋賀県生まれ。甲南女子大学文学部教授。フランス文学専攻。著書に、『石と光の思想』(勁草書房)、『小林秀雄とその時代』(文芸春秋)、『恩寵の音楽』(音楽の友社)、『西欧と愛』(小沢書店)、『幻想の都市—ヨーロッパ文化の象徴的空間—』(新潮社)『ヨーロッパの四季』(東京書籍)など多数。

ところでブルゴーニュ地方がフランスのみならずヨーロッパの中心として宗教、文化、政治で重きをなしてくるのは、先にふれたクリュニー修道院の成立とその活動のはじまりからである。地形の問題はソーヌ河流域を中心にまとまりやすく、平野と丘によって形づくられ、水源としては、セーヌ河、ローヌ河をもっている。

他方、交易としてはスイス、ドイツと隣接し、ローヌ河を北上してくるルートとアルプスを越えてくるルートによってイタリアや地中海とつながり、他方、ネーデルランド、フランドル、北フランスと頻繁に往来がある。

政治的に言うとブルゴーニュ公領はブルグンド王国の解体から生まれたものである。周知のようにシャルルマーニュ大帝の死後、ヴェルダン条約(843年)の分割に際してはソーヌ河の東北に分かれたが、西側のブルゴーニュ公領はシャルル禿頭王の死後、弟にあたるリシャールがこれを引き継ぎ、カペ王朝のものとなった。この頃より、各代のブルゴーニュ公は、たとえば南仏、アルビの「カタリ派」へ十字軍に参加し、また国に忠誠を尽くした。その後、14世紀、15世紀によるブルゴーニュ公国の華やかな歴史が中世末期を色どるのであるが、それは次回の問題とし、今はさしあたって、ヨーロッパにおけるキリスト教の活性化の中心となる、クリュニー修道会、シトー修道会の問題に戻って考えてみたい。



ところでクリュニー修道院を建立したマコン伯のギヨーム・ダキテーヌは、910年にその主旨をこう説明している。「余に由来あるものであれ、あるいは余の血縁に由来するものであれ、はたまた、国王に由来するものであれ、一切の世俗的支配から免れるべし」と。この修道会はローマ教皇に従うのみであり、王権の指図は受けないという考えであった。そこには王達や領主が司教あるいは司祭、修道院長をほしいままに任命することが多いそれまでの慣習をしりぞけるというねらいがあった。以後12世紀の半ば、より厳格で禁

欲的なシトー修道会の出現まで、クリュニーはヨーロッパ全体にわたり、多くの修道院をつくり、ローマ教皇につぐ権力を得たのである。しかもそれは、かつてのローマ法のようにピラミッド形態であり、その活動の範囲はなおもイスラム勢力のつよかったカタルーニア地方にも及んだ。リポール、サン・ヴィセンテ、サン・ミシェル・ド・キュサ等の修道院がピレネー南北につくられた。

修道院は貴族たちの土地寄進によるものが多いが、その保護を狙う王と貴族との争いはローマ教皇と王達の聖職者任命権をめぐる「カノッサの屈辱」（1076年）で頂点に達する争いの下地を形づくったものである。言うまでもなく、それは教皇グレゴリー7世にたいするハインリッヒ4世の「破門のゆるし」を求めたことを示している。しかしクリュニー修道院は農耕を無価値だとする貴族的な考え方と、東方ビザンチンの影響による壮麗な典礼への依拠、寄進と奴隷にまもられた生活によって次第に創立当初の聖ベネディクトウスの戒律の素朴な規制から離れて行った。

他方、このような逸脱に対する修道士たちの不安は、やがてシトー修道会の出現によって吸収される。その希求が禁欲、黙想、清貧、労働をともない、人里離れたところに修道院をつくる働きを生んだとしても不思議ではない。シトー修道会は1098年、ロベール・ド・モレーム（ベネディクト派修道士）がつくり、聖ベルナルドゥスの尽力によって格段の発展をとげたのである。P・ガクソットがのべるように、この卓越した能力は「1125年から1153年までの四分の一世紀以上もの間、西欧カトリック教会の真の支配者」たらしめたのである。彼らは森を拓き、水をうるほし、牧畜や養魚、ぶどう畑をたがやし、工具を開発し、典礼を少なくして労働を行いながら信仰の炎を自らのうちにつくり上げて行った。

この二つの修道院がともにブルゴーニュ地方に生れたのは、しかし決して偶然ではない。冒頭でのべたように、ヨーロッパにおけるすぐれた文化、交易の中心をこの地方が形づくり、しかも肥沃な土地に恵まれ

ていたからである。それはある意味で「第二のローマ」とも言うべき働きをもっていた。したがって、この地方がやがてホイジンガが『中世の秋』でのべるような学芸文化の拠点となったことも納得できよう。それは中世ヨーロッパを集約しながら「近代」を準備する場所ともなる。

（続）



カノッサの屈辱

Château de Chailly

シャトー・ドウ・シャイイ

中世がいまだに息づいているブルゴーニュにいらっしゃいませんか？数々の銘酒を生み出すぶどう畑、グルメレストランの数々、中世そのままの街並、美しく広がる大地や小さな村々、豊かな生命力と「はだのぬくもり」を感じる地方、それがブルゴーニュです。

お問い合わせは(株)佐多商会ブルゴーニュ事業部へどうぞ

TEL:03-5762-3010 担当:岩沢、田中

